世界で輝け!!
東海大会出場・再表彰

かわスポ
第1号 出陣式・再表彰

部活動係新聞

令和6年6月3日（月）

女子サッカー部

準々決勝の安城学園戦では初戦ということもあり，緊張感漂う序盤となった。前半17分に先制点が入ってから，自分たちのサッカーができ，6対0で勝利しました。準決勝では，愛知啓成高校と戦い，3年生だけでなく1年生が点を取り，6対0で勝利した。この結果は，何度もチームでミーティングを重ねたからだと言える。チームスポーツは全員が戦略を共通認識し，実践していかなければチームはまとまらない。練習だけでなく，普段の生活においても声を掛け合いながら過ごしてきた。女子サッカー部は「全ての人を魅了する」をスローガンに掲げ，日々活動している。その魅力は人それぞれである。ドリブルが得意な選手，ヘディングが得意な選手，声を出してチームを鼓舞する選手，周りのことにいち早く気づきサポートできる選手など個人の能力だけでは叶わないことでも全員が集まることにより高みを目指すことができる。チームの心臓部であるボランチを担う加藤芽衣選手と中辻柚希選手が攻撃面でも守備面でも人一倍体を張り，チームに貢献している。「東海大会は，2日間で3試合を勝ち抜かなければならない，厳しい戦いとなります。各県の優勝校が出場し，上位2位が全国大会出場の切符を手にします。私たち女子サッカー部は，3年ぶりの全国大会出場に向け，一戦一戦をチーム全員で全力で戦い，必ず全国出場を果たします。私たちのピッチでの躍動する姿を是非応援してください。」と意気込みを語った。

女子ソフトテニス部

このチームは，3年生2名の他はすべて2年生で構成されている。チーム始動時は，学年の壁がなかなか薄まらず，とてもまとまりのあるチームだとは言えなかった。しかしこの半年間，主将塩沢を中心に，3年生がときには優しく，ときには厳しく2年生を引っ張り，着実にチーム全体のまとまりが出てくるようになった。練習は，男子部員と一緒のメニューをこなし，技術や体力を向上させていった。そんな中迎えた東三河予選では，団体戦において宿敵・豊橋中央高校に敗れ，準優勝。悔しい結果に終わった。その悔しさを心に刻み，インターハイ出場という目標に向けさらなる技術向上，ゴールデンウィーク遠征での実践を経て，県総体に臨んだ。個人戦では渡邊・塩沢ペア，加藤・星野ペアの2ペアがベスト8に入り，創部初のインターハイ出場を決めた。思わず涙がこぼれる感動的瞬間を与えてくれた。翌日の団体戦では，個人戦の勢いのまま優勝を狙っていたが，準決勝で岡崎城西高校に敗れ，第3位となった。しかし，東海総体へは4年連続の出場であり，先輩たちが成し遂げてきたことを今年のチームも引き継いでくれた。簡単にはできないことである。胸を張って愛知県代表として挑んでもらいたい。技術面だけでなく，その存在はチーム全体の士気を上げてくれる頼もしい主将である。星野も高校から前衛に転向し，この1年間で着実に力を付けてきた選手で，大石は技術のバランスが良く，ネット前のボールを確実にとらえることが強みである。ベースラインプレーヤーの山田と渡邊と加藤，どの選手も打球力があり，相手とのラリーの中で，前衛のチャンスボールを生むことができる。相手の隙を突いたプレーもできポイント力も高い。東海大会では，個人・団体ともに入賞を目指し，今年のチームスローガンにもある「Make History」が達成できるよう全力でプレーしたい。

男子バドミントン部

県大会において，1回戦中部大春日丘に3-1で勝利，2回戦一宮西に3-1で勝利。続いて準決勝で名経大市邨に3-0で敗北となった。他校に比べ，高校からバドミントンを始めた初心者が多くいるチームではあるが，倉田裕音や鈴木碧馬，筒井裕翔を中心に第3位という結果を納めた。猶介孤高というスローガンの元，日々の厳しい練習に励んでいる。大会では，2大会連続で負けている愛三大三河高校を破り県大会に出場。東海大会は逃したものの，最後まで全員で戦い抜いた。

女子バドミントン部

中学時代は全く無名選手であった3年キャプテン田中愛美は，メキメキと力を付けてきた。しかし，総体三河予選の直前に怪我をし，出場すら危ぶまれたが，なんとか予選ベスト8通過で県大会に挑んだ。大会直前，パートナーの2年森との意思疎通がうまくいかず落ち込み悩んだが，2人は大会当日は考えることをやめ楽しむことを選んだ。その結果，ストレートで倒し，勢いに乗ったまま第3シードの岡崎城西高校にもストレート勝ち。ついに準決勝第2シードの市邨高校にもストレート勝ちし，格上の相手を次々と倒す快進撃を繰り広げた。そして，創部初の決勝進出となった。決勝，2位決定戦では格上相手に奮闘するも全国の切符は手に取れなかったが，3位という素晴らしい結果を持ち帰った。そして，森は東海総合への出場権を手にいれることができた。

男子ソフトテニス部

ここ数年で一番技術・実力・経験が低い代と言われてスタートしたチームであった。新チームに移行後はこのチームでやれるテニスを模索し，ベースラインプレーヤーの緩急・変化をつける配球とネットプレーヤーの仕掛けの早さを意識してチーム作りを進めた。また，有望な1年生が多く入部し，チームの層は春から一気に厚くなった。東三河予選では，個人戦ベスト4独占・団体戦でも快勝し，ゴールデンウィークの遠征で経験を積み県総体に挑んだ。県総体では新人戦で敗れた大同に準決勝で善戦するが，最後は力負けであった。3位という悔しい結果で県総体は幕を閉じた。しかし，県のベスト8に入れるかどうかも分からない状況でスタートしたこのチームでの東海大会は県総体とは後輩に見せて悔しさを後輩に託して欲しいものである。大同に負けて4位出場となったため，東海大会では他県の1位の学校との対戦となる。予想では，昨年度インターハイ3位の三重県の三重高校・全国大会に毎年常連である岐阜の中京高校・混戦を勝ち抜くであろう静岡県の知徳高校・富士宮北との対戦が想定される。豊川よりどの学校も選手層も厚く，実力は上であることは間違えない。この大会でも向かっていくテニスを実践し，1試合目を粘り強く勝ち切り，東海大会ベスト4を目標に大会へ挑みたい。注目選手は，ネットプレーヤー山口塁・山口旭陽はメキメキと力をつけて，県外大会でも勝てる力を秘めており，爆発力に期待をしたい。ベースラインプレーヤの大島・横井はこの1年間で力をつけた選手である。打球力は無いが，粘り強くラリーを続けよく拾う大島，緩急やボールの高さを操ることができる横井ネットプレーヤーの力を力を引き出す配球が特徴的である。1年生の爆発力にも期待が持てる。

陸上部

今年度陸上競技部から東海大会へ出場した人数は23名であり，創部以来最多人数で挑む。特に男子の4×10メートルリレーは東海大会優勝候補に名を連ね，今年度インターハイでの決勝進出も期待されている。さらに，女子100メートルハードルの三好澄果は愛知県高校総体で自己ベストを更新し，全国ランキング11位につけ，東海大会優勝候補に名を連ねる。「陸上競技の東海大会は全国屈指のレベルの高さを誇り，大会当日何が起こるかわかりません。全員が死力を尽くし，1人でも多くインターハイの切符を勝ち取ります。」と意気込みを語った。

男子サッカー部

高校総体では，2回戦豊田北7-2で勝利。3回戦は中部大学春日丘となった。準々決勝は愛工大名電との対戦で見事3-2で勝ち取った。新人戦のリベンジマッチであり，激しい打ち合いを制し，延長の末勝利を掴んだ。創部初の県大会ベスト4となった。男子サッカー部では，は3年生13名・2年生40名・1年生54名・マネージャー3名の110名で活動している。「東海総体には初出場となります。勝負にこだわり，頂点目指して突き進みます。メンバー，応援，全員で戦い，主将の鈴木蓮都・副将の福井暖琉，白井悠翔，主務の神谷勇惺，2学年代表の平松大雅を中心にピッチ内だけでなく，その他の活動にも精力的に取り組んでいる。3-1で勝利となった。相手の強さから，個人戦では引き分けがないため，勝つまで永遠に行われる。精神力，集中力が勝敗を左右する。齋藤は，初戦からも本調子ではなく，長い延長を繰り返し，勝ち上がっていった。東海の勝負掛けの一戦。相手は星城高校のポイントゲッター。この一戦には気持ちが入り，強気の攻めで一本をもぎ取った。団体戦の構成は，3年3名，2年2名，全員攻撃力がある。先鋒の3年の岡山は，特攻隊長として，チームに良い流れを持ってきてくれる。次鋒の2年山下は，上段の構えに変えてメキメキと上達し，片手面を武器に戦う。中堅の3年の齋藤は，ポイントゲッター。チーム一の攻撃力を持つ。副将の山本は主将で縁の下の力持ち。上段で片手面が得意。大将の2年の中村は，突進力があり，スピードが持ち味。団体戦の東海総体では，団体戦につながる戦いをする。

女子駅伝部

秋竹凛音3000メートルで第3位，小山和月3000メートルで第4位，秋竹奏音3000メートルで第6位，谷凪紗1500メートルで第4位，内田詩乃1500メートルで第6位・8００メートルで第5位　川原愛夏5000メートルで第1位となった。春から持久力を高めていき，徐々にスピードを取り入れたレースに近い練習を増やして走り込んできた。練習の目的を考え，全員が積極的に自分が強くなるための工夫をしながら日々練習し，今ある環境に感謝の気持ちを持ちながら思いやりのある行動を心がけて生活している。3年生が中心となって声を掛け合い，切磋琢磨しながらお互いにレベルアップを目指して何事にも全力で取り組めるチームである。目標は全種目インターハイ出場と掲げている。「全員が6位入賞を目標に1秒にこだわって最後まで全力で走り切ります。」と意気込んでいる。

水泳部

高校生4大全国大会の1つであり，2023年度を締めくくる今大会に過去最多人数の35名がエントリーをされたために最後の全国大会に向けてスピード，持久力，テクニックを最大限まで詰めてきた。過去最多人数が標準記録を突破した。リレーでは次年度を見据えて1・2年生のみで組んで，ジュニアオリンピック最優秀選手の西川我咲をはじめとして豊川高校に入学して大きく力を伸ばした面々が出場した。目標は，複数種目での優勝及びメダル獲得と掲げている。

女子バレーボール部

このチームは新チームとして，革命をテーマに取り組んできました。感謝の気持ちを持つことと自立をしてバレー界の革命を起こすために頑張ってきた。豊川高校は，練習時間が短いからこそ他校よりも自由が多い。自由と自立を間違えてはダメだということを言葉に出して徹底してきた。新人戦やさくらバレーではチームとして自由と自立の違いに大きく気付かされた。そこから，日常のこだわりをできる限り増やし，新人戦では3位だったものの最後の全国大会へ向けてスピードを上げ，インターハイを逃したことは悔しい結果とはなったが成長につながる大きな課題がそれぞれ見つかる大会となった。今年のチームは，感謝と自立をモットーに頑張っている。オフはオフではない。練習時間が短いからこそやられるバレーボールではなく，バレーボールがしたくてしたくてしている部活動が，レベルが高くていくべき姿であるとは思えるそんなチームであり，自分たちの成長が1ヶ月でどこまで伸びるかという成長を感じるチャンスだ。成長スピードをどこよりも早く，春高に行くためのステップとして東海大会優勝を目指す。

男子剣道部

県大会は，各地区から勝ち上がった48名によるトーナメント戦で行われました。本校の島は，地区を3位で県大会に臨んだ。初戦は固さはあったが，延長開始早々，出頭の面で勝ち切り，2回戦も危なげなく勝ち進んだ。勝負がけの一戦。相手は，岡崎城西高校のポイントゲッター。しかし動じず，自分の剣道を貫き通し，勝ちをもぎ取った。東海総体出場をもぎ取った。さらに，次の一戦も勝ち切り，インターハイもかけた一戦は力負けをした。相手の虚を攻めるのが得意の選手。個人戦では，負ければ終わり。引き分けはない。そのため，戦いは慎重になりやすい。しかし，島は違う。個人戦では自分を変えない。普段の力を普段通り出すのがもっともできる選手である。団体戦では東海に行けず悔しい思いをした。チーム豊川で東海では戦ってきたい。

女子剣道部

県総体団体戦第3位にて，東海総体出場。県大会は，各地区から勝ち上がった28校によるトーナメント戦で行われた。女子剣道部は，地区2位で勝ち上がった。そのため，2回戦では知多地区の1位対戦とすることとなった。初戦は，各チームとも動きは固かったが勝ち切った。続いての知多地区1位の学校には，初戦の硬さが取れ本来の動きが戻り，前三人で勝負が決まった。続いて東海をかけた勝負の一戦。相手は愛知高校。これまでに練習試合で何度か対戦をしていて，勝率も五分五分であった。先鋒次鋒と引き分けにきて，中堅戦。互いのチームのポイントゲッター同士の戦い。相手の強さから相手より上回り2本勝ちで勝利を収めた。続いて副将戦。主将が意地の一本を決め，チームを東海に導いた。県総体個人戦第5位にて，東海総体出場。県大会では，各地区から勝ち上がった48名によるトーナメント戦で行われた。個人戦には引き分けがないため，勝つまで永遠に行われる。精神力，集中力が勝敗を左右する。齋藤は，初戦からも本調子ではなく，長い延長を繰り返し，勝ち上がっていった。東海の勝負掛けの一戦。相手は星城高校のポイントゲッター。この一戦には気持ちが入り，強気の攻めで一本をもぎ取った。団体戦の構成は，3年3名，2年2名，全員攻撃力がある。先鋒の3年の岡山は，特攻隊長として，チームに良い流れを持ってきてくれる。次鋒の2年山下は，上段の構えに変えてメキメキと上達し，片手面を武器に戦う。中堅の3年の齋藤は，ポイントゲッター。チーム一の攻撃力を持つ。副将の山本は主将で縁の下の力持ち。上段で片手面が得意。大将の2年の中村は，突進力があり，スピードが持ち味。団体戦の東海総体では，団体戦につながる戦いをする。チーム豊川で，部員全員で試合に臨む。個人戦の東海総体では，団体戦につながる戦いをする。

吹奏楽部

2024年3月24日（日）長野ホクト文化ホールにて行われた，中部9県の代表が集まる最上位大会。クラリネット梅村大地は2年連続の本大会出場。今年度は点数としては同点1位だが，順位としては，同点決勝2位となる。アルトサックス山田陸斗は，昨年度の地区落選の悔しさをバネに，そこから1年間誰よりも早く学校に来て練習に励んでいた。結果として，第36回中部日本個人・重奏コンテストにおいて，クラリネット独奏で梅村大地が理事長賞（2位）を受賞し，アルトサクソフォーン独奏で山田大地が金賞受賞となった。

男子駅伝部

愛知県高校総体予選会5000メートルで，神田悦士さんが第5位となりました。昨年は この大会で相地が優勝したことで，神田は スタートから激しい戦いの中，冷静に先頭に食らいついて優勝を狙ったが力及ばず第5位となった。東海大会では静かに先頭に食らいついて優勝を狙ったが力及ばず第5位となった。東海大会では もう一度コンディションを整え優勝を勝ち取りたいと話していた。